

『国富論』

- 自由市場経済と「見えざる手」
  - 「見えざる手」
    - 経済は政府の介入なく自然と調和
    - 自分の利益追求⇒社会全体の利益に
  - 
    （例）パン屋
    - おいしいパンを作るのは自分の利益のため
    - 結果的にお客さん満足⇒社会全体が潤う
  - 政府のあり方
    - 経済に必要以上に介入しない
    - 自由な経済活動を保証すべき
- 分業による生産性の向上
  - 分業
    - それぞれの人が得意な作業に特化
    - 全体としての効率が上がる
    - 国レベルでも提唱：各国が得意な産業に特化すべき
  - 
    （例）ピン工場
    - 1人で完結：1日20本しか作れない
    - 10人で分担：1日48,000本も作れる
- 労働価値説と資本の役割
  - 労働価値説
    - 商品の価値の源泉＝労働
  - 
    資本の役割
    - 資本を使うことで労働の生産性が上がる
    - 資本家は利潤を得る権利がある
    - 労働者の賃金
      - 低すぎてはいけない
  - 資本家と労働者
    - 対立するが自由市場ではバランスとれる